

「みどり葉」は高志高校のスピリット 校歌特集 ～高志の校歌 誕生秘話とその魅力～

高志高等学校同窓会の名称は「みどり葉会」。私たち同窓生が母校を思い出すときに共通して脳裏に浮かべるのが「みどり葉は～」の歌詞ではじまる校歌です。戦後もなく作られ、歌い継がれてきました。この特集では、私たちが卒業後、何年たっても忘れられない校歌の魅力とは何か調べてみました。並行して同級生（42回卒）のアンケート回答も紹介します。昭和、平成の頃を思い返しながらお楽しみください。

同級生に聞きました!「みどり葉の校歌の魅力って何でしょう?」パート①

- みどり葉は…の出だしから半分くらいは今でも歌えます。
- 中学校の校歌は思い出せないけど、高志の校歌は今でも歌える。やっぱり心に残ってるんだろーな。
- お正月の同窓会で、卒業以来久しぶりに歌ったのに、ちゃんと歌えた自分にビックリしました。小・中学校の校歌は覚えていないのに、不思議ですね。やっぱり「みどり葉」は特別だなと思いました。



校歌・応援歌を収めるレコード
42回生の入学式で全入学生に配布された

作詞者・作曲者について



作詞 **森山謙一郎**

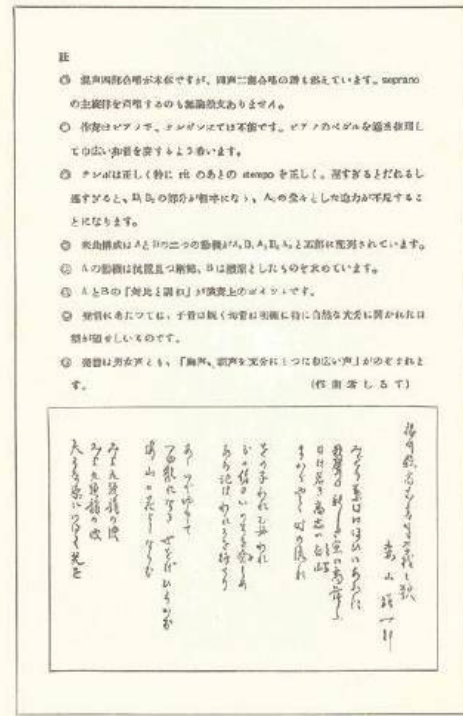
明治35(1902)年～平成2(1990)年
長野県生まれ。法政大学を卒業し、教員として青森や東京で勤めた。大正8年より太田水穂に師事。短歌を学び、潮音社に入門する。著書に歌集『冬牡丹』(人文書院)など。



作曲 **石桁真礼生**

大正5(1916)年～平成8(1996)年
和歌山県生まれ。東京音楽学校卒業後、福井師範学校に赴任し、数年間福井に住む。その間、福井の学校の校歌を数多く作曲。昭和20年、福井空襲で家財一切を消失。その後、東京音楽学校講師、後に東京藝術大学にて後進の指導にあたる。著書に『楽式論』(音楽之友社)など。

肖像写真:
『高志高等学校五十年史』
福井県立高志高等学校 1998 所収



上段 作曲者・石桁真礼生による註
下段 作詩者・森山謙一郎の直筆歌詞
『福井県立高志高等学校校歌』楽譜
(発行年月不明)より

【豆知識】

森山・石桁のコンビで作詞作曲された、東京都立小松川高等学校の校歌には、高志高校と同じ「をの子われ」「男の子われ」のフレーズもありますが、順番とメロディは異なります。

同級生に聞きました!「みどり葉の校歌の魅力って何でしょう?」パート②

- 男子だけで歌うところ、女子だけで歌うところがある!初めて聴いたとき衝撃的でした。
- 「をの子われ、乙女われ」ってフレーズが、なぜか頭に残っています。
- やっぱり「をの子われ、乙女われ」はあんまり他にないアレンジで面白いですね。まさに戦後の学制改革で誕生した高校の校歌っばいな～と思います。よい意味で。



「みどり葉は にほひにあふれ 歌声は新しき空に高まふ 校歌が誕生した背景

高志高等学校誕生

昭和20年に終戦。昭和23年に学制改革により、総合制・男女共学の福井県立第二高等学校が設置されました。翌昭和24年、校名を改称し、福井県高志高等学校となりました。設置当初、校歌はありませんでした。

校歌作成の機運が高まる

昭和24年度の第1回卒業式の時に、卒業生を祝福する校歌を歌えなかったことへの無念さ、また、新しく誕生した高志高校生としての自覚の高まりから「われらに校歌を」の声があがりました。昭和25年度第1回生徒委員会で、校歌応援歌作成委員会がつけられました。いっぽう、教員からなる委員会も作られ、生徒、教員が力を合わせ、校歌作成に向けて動き出しました。

松井泰校歌・応援歌作成委員長(生徒)のこぼれ

「我々としても学校の栄える限り永遠に減じない校歌応援歌を作るという名誉ある仕事ですから立派な成功を収めたいと思っています。私個人としましても三月の卒業式の時、壇上にかけて手を打って《注:校歌の代わりに》高志校健児の歌を唄ったあの時の気持ちを忘れることが出来ません。」

『高志高校新聞』第5号(昭和25年7月)高志高等学校新聞部 1950より

校歌作成委員会の意向

校歌作成委員会では、以下の基本方針をたて、久米田裕教諭が千葉県に住む石桁真礼生を訪問し、作曲を依頼しました。その後、石桁は、知人の森山謙一郎に作詞を依頼しました。

- 校歌は例え時代が変わり校名が変わっても誰でも歌える校歌であって欲しい、それには特定の固有な単語は、成るべく用いるのを避けて頂きたい
- 作詞は従来の校歌の型を破って、一連の詩にし其の中には学校及び生徒の在り方を示す一方、浪漫的香りの高いものが望ましい

久米田裕著「校歌の今と昔」『高志高校新聞』第6号(昭和25年10月)高志高等学校新聞部 1950より

校歌の誕生

校歌発表記念式は、昭和25年11月19日、石桁真礼生を招待して福井市公会堂で盛大に行われました。



多くの方の期待を受けて 待望の校歌がついに生まれたのですね!



校歌発表記念式・記念芸能発表会
『高志高等学校五十年史』福井県立高志高等学校 1998 所収

正面玄関にある校歌碑(昭和43年3月8日除幕)
昭和42年度卒業生が卒業記念として建立



『緑葉』創刊号 高志高等学校 1951
校誌の創刊にあたり、誌名案を募集したところ、校歌の最初の「みどり葉」が多数寄せられたことから誌名は『緑葉』となりました。創刊号で、「校歌の生れるまで」を特集。

『緑葉』創刊号は、「デジタルアーカイブ福井」から見られます

